

令和5年6月吉日

各位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター  
交流企画部会長 柿沼太郎

### 国際島嶼教育研究センター第231回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第231回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

#### 記

日時：令和5年7月18日（火）16時30分～18時  
（通常は月曜開催ですが、今回は火曜日開催となっています）  
会場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室  
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）  
中継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室  
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）  
WEB：Zoom  
参加費：無料（通信費は参加者負担）

#### 一色次郎研究の現在

鈴木優作（鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター）

##### 【要旨】

本発表では、沖永良部島出身の作家・一色次郎（1916-1988）の研究状況について述べる。一色は、「冬の旅」（1949年）および『孤雁』（1961年）で二度の直木賞候補となり、1967年に「青幻記」により第3回太宰治賞を受賞し、1973年に映画化され、海外諸国でも上映された。以後も共編『東京大空襲・戦災誌』（1974年）で菊池寛賞、『サンゴしょうに飛び出せ』（1975年）で産経児童出版文化賞を受賞した。以上のように存命中に活躍した作家であるにもかかわらず、現在沖永良部でも一色を知る人は多くなく、文学史においても顧みられることがほとんどない。発表者は、一色次郎の研究を推進し再評価の機運を高めていきたいと考えている。

まず、これまでの一色をめぐる言説が、結核を患った母との交流をテーマとした「青幻記」、および父の冤罪と死を扱った「太陽と鎖」（1964年）に集中しており、一色文学が「青幻記」以前・以後という区分で一般に認識されていることを指摘する。つぎに発表者は総体的に一色文学を捉えるため、新たなより詳しい時代区分を提唱する。①出発点としての、19-20歳にかけて出版した二点の創作集②「青幻記」受賞以前の少年少女向け偉人伝記・冒険小説③②と同時期に文芸誌に執筆した純文学作品④「青幻記」⑤「青幻記」以降、「魔性」（1979年）など自ら参加した死刑廃止運動と関わる作品。

加えて、沖永良部島での調査を含む、一色の一次資料調査の成果について紹介をしたい。

### 【対面式でのご参加（要登録）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて7月13日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：  
お電話番号（必須）：  
ご所属先：  
ご住所：  
メールアドレス：  
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

### 【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて7月13日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：  
メールアドレス（必須）：  
ご所属先：  
ご住所：  
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

---

### 【ご連絡先】

対面式（申込期限：7月13日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：大塚）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：財部）

オンライン（Zoom）（申込期限：7月13日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）